



IPPNW(核戦争防止国際医師会議)コーナー

第18回 I P P N W世界大会

「開会式スピーチ」

インド副大統領 シュリ・モハマッド・ハミッド・アンサリ

第18回 I P P N W世界大会開会式に参加できて大変光栄に思う。ノーベル平和賞を受賞された I P P N Wの先駆的事業についてはもちろんのこと、平和・健康・開発に対する努力はここで述べるまでもない。I P P N W大会は、武力紛争の原因を特に公衆衛生の視点から理解するうえで大変役立ち、核戦争が及ぼす健康と環境への重大な影響について草の根レベルでの認識を高めてくれる。また、会議に学生や若者が積極的に関与し参加していることは、将来の政策決定者の認識を高めるという点で大切なことである。

ご存じの通り、1946年1月24日国連総会の第1決議で、国家の軍備から核兵器およびほかの大量破壊兵器をなくすこと、原子力エネルギーは平和目的にのみ使うように管理することが全会一致で採択された。核兵器使用の恐怖が全ての責任ある国家に核兵器廃絶の必要性を確信させたのである。1996年7月8日、国際司法裁判所は“あらゆる点において厳格かつ有効な国際管理のもとに核軍縮に至る交渉を誠実にやり完結する義務がある”と勧告的意見を下した。核軍縮論議は、インドを含む多くの国々やNGOによる非同盟運動で盛り上がりを見せた。

基本的合意はみたが、このビジョンを実現するための実際の方策やアプローチについては意見の相違が多々ある。1954年に核実験の停止を最初に提案したのはインドであった。1965年に核不拡散条約(NPT)の原則を最初に提案したのもインドだった。この条約が普遍的で包括的な不拡散という第一の目的を扱う代わりに、核兵器を保有している数カ国だけに保有を続けさせ、核戦力増強を合法化させることにすぎないことが明白になった時に、インドはNPTに署名することを最終的に拒否した。

私は故ラジブ・ガンジー首相の国連でのス

ピーチを思い出す。故首相はこのように訴えた。“数カ国が人類の生存を脅かすことによって自国の安全保障を得るという論理は容認できない。核兵器を持つ国は管理されることなく、持たざる国は核兵器をつくらないように監視されていることも容認できない。歴史は鉄則のような偏見であふれている。例えば、男性は女性より優れている。白色人種は有色人種より優れている。植民地主義は文明化という使命。核兵器保有者は信頼できる権力者で、非保有者は信頼できない。”

インドは故ラジブ・ガンジー首相のビジョンが具現化される世界を切望している。核兵器の惨禍のない非暴力の世界を。核軍縮を進展させるには、国際社会の相互信頼が必要である。そして、核兵器を完全廃絶へと導くためには普遍的で差別のない、検証可能な禁止条約を締結しなければならない。

以下の点は核兵器廃絶を達成するための行動と具体的な方策であり、国際社会において協議すべき項目である。

1. 全ての核兵器保有国は核兵器の完全廃絶という目標に向けての明確なコミットメント(誓い、約束)を再確認する。
2. 核兵器の使用および脅威を完全に禁止する条約の交渉を行う。
3. 核兵器の開発・製造・備蓄・使用の禁止と核兵器を破壊する条約の交渉を行い、時間的枠組みを設けてグローバル、無差別、検証可能な核兵器廃絶を目指す。

ジョージ・シュルツ、ウィリアム・ペリー、ヘンリー・キッシンジャー、サム・ナン の4氏は再び*、2008年1月15日付けの The Wall Street Journal の論壇で核兵器廃絶の必要性を力説し、核兵器のノウハウと物質が広く拡散してしまった今、われわれはもう引き帰さざるを

得ないところまでできてしまったと述べている。
4氏は、“優先項目に関する国際的コンセンサスの形成に政治的意思を用いて、核兵器のない世界という目標を国家間の実質的な事業にする”ために、核兵器保有国と非保有国を含むグローバルな対話の必要性を強調しているのである。

しかし、広島・長崎から60年、今なお国際努力の中心が“優先項目に関する国際的コンセンサスを形成するための政治的意思”にあるとは特筆に値する。

本大会の“平和・健康・開発”は時宜を得たテーマであり、大会の成功を祈願する。

*訳注：2007年1月4日付けの The Wall Street Journal の論壇にも「核兵器のない世界」を寄稿。

ジョージ・シュルツ：レーガン政権期の国務長官。

ウィリアム・ペリー：クリントン政権期の国防長官。

ヘンリー・キッシンジャー：ニクソン、フォード政権期の国家安全保障担当大統領補佐官、国務長官。国際政治学者。

サム・ナン：クリントン政権期の上院軍事委員長。

(原文：英語、翻訳：事務局大木)

日本医師会女性医師バンク

求職者・求人者向け **登録受付中**
登録・紹介 **無料**

日本全国、会員でない方も登録できます

求職（求人）登録票のご請求は、中央センターまでお申込下さい

日本医師会女性医師バンクの特色

無料 登録・紹介等、手数料は一切いただきません。

日本全国 日本全国の医師、医療機関にご利用いただけます。(会員でない方も登録できます。)

個別対応 就業に関するご相談は、コーディネーター(医師)が、丁寧に対応いたします。

予備登録 今すぐに働く予定のない方もご登録いただけます。

秘密厳守 ご登録いただいた情報は、適正に管理し、秘密は厳守いたします。

このたび、社団法人日本医師会は日本医師会女性医師バンクを開設いたしました。(平成19年1月30日開設)
日本医師会女性医師バンクは、就業を希望する医師に、条件にあった医療機関を紹介し、勤務環境の調整を含め、採用に至るまでの間の支援を行い、再就業後も様々なご相談に応じます。

厚生労働省委託事業 **日本医師会女性医師バンク** 厚生労働大臣許可 13-ユ-301810

(ご連絡・お問合せ先)

中央センター
〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
日本医師会館 B1
TEL: 03 (3942) 6512 FAX: 03 (3942) 7397

(各拠点)

東日本センター
日本医師会館内

西日本センター
福岡県医師会館内